(2021年)
令和３年
10月21日発行

紀南PTA連合会会報

〈発行〉紀南PTA連合会
熊野市木本町622-13
〈編集〉紀南PTA連合会
広報委員会

紀南P連
Mr.Takagakiの
呟き!!

みなさんは、この言葉を呟いてませんか？

“無理”“無駄”“駄目”

無意識に思う言葉は、潜在意識に突き刺さる。
自分自身と子ども達にもこの言葉を投げていませんか？
現在意識は５%、潜在意識は 95%
天才は、潜在意識の使える人！
オリンピックのメダリストに学ぶのであれば、大切な一言は、
“努力とやればできる”の反復のみ、勝者の共通点は、
勝てると思い続ける強い気持ち、モチベーションの持続！
きっと貴方もゴールドメダリストかも!?

令和3年度　紀南PTA連合会定期総会について

昨年度に引き続き、本年度も予定しておりました令和３年度紀南ＰＴＡ連合会定期総会は、新型コロナウイルスの影響により、開催を自粛致しました。　※以下、「紀南Ｐ連」とする。

つきましては、事業計画・会計・予算等に於いてですが、各学校長及びＰＴＡ会長等に確認頂き、書面決議という形をとらせていただいております。

本年度の役員及び監事については、紙面（３）に記載しております。御用の際はＰ連事務局・役員等にご相談いただければ対応いたしますので、紙面ではありますが、ご報告とお断りを申し上げておきます。

研修委員会のイベントプレ案内

日 時　令和３年12月４日(土)
13:30開場　14:00～15:30

会 場　熊野市防災公園 野球場屋根付練習場
〒519-4325　熊野市有馬町3537

参加対象　紀南地域の小学生以上
※保護者及び教職員の参加も可能です。

講師　川谷　潤太（カワタニ　ジュンタ）

申込フォーム

研修テーマ　「潜在“脳”力」のふしぎ
～人間ってスゴイ！わたしってスゴイ！～

どんな人でも、誰しもが驚くほどの能力が隠されています。
それを引き出すための第一歩は暴力・圧力・統制ではなく「希望」です。
それは難しいことではなく、ちょっとしたきっかけです。
一人でも多くの紀南の子ども達に伝えて、自分の人生を切り開いて頂きたい。

家庭幼児教育委員会のイベントプレ案内

日 時　令和4年1月23日(日)
13:00開場　13:30～16:00

会 場　三重県立熊野少年自然の家
〒519-4327　熊野市金山町1577

参加対象　幼稚園・小学生・中学生
※保護者及び教職員の参加も可能です。

講師　三重大学　川口　淳 准教授

内容　*「地震について学ぼう！」*
防災講演会・体験コーナー
（地震体験車・ロープワークほか）企画中
是非ご家族でご参加ください!!

申込フォーム

会長あいさつ

髙垣　裕人

令和３年度 紀南ＰＴＡ連合会 コロナ禍での取組

昨年からのコロナウィルスの蔓延が継続しており、2021年度の総会も２年連続書面決議となりましたが、無事議事を承認頂き、感謝申し上げます。

２年目となりますが、本年度もＰＴＡ会長の職責を果たせるように努力させて頂きます。

本年度のテーマは、昨年度末より取り組んで参りました
「ＳＤＧｓに取り組む生き方の見直し“絆”」

サブテーマは、昨年度同様に**「家族の絆・友の絆・地域の絆」**を継続。

昨年度同様に、コロナ禍での活動制限等、様々な課題に直面しておりますが、今年度は、本部役員会・評議委員会と当初の計画どおり活動を開始しております。

昨年度は、執行部役員の意識改革に着手し、「円滑なＰＴＡ組織運営」に大きな効果を発揮してまいりました。コロナ禍でも役員の皆様には、**「子ども達の為に何が出来るか！活動の中で、どのような楽しみを見つけ、スキルアップの改革が出来るか！」**を力強く推進頂けたと感じる１年でした。

先ず第１弾は、昨年の成功事例からＬＩＮＥ体制の構築、ＰＤＣＡサイクルの実施、各人の存在価値とチーム連携による、総意をまとめる活動の見える化を開始しています。新本部役員として、多くのメンバーが変わっていることで、再度立上げる必要も発生しています。小さな事からＰＤＣＡサイクルを回し、実績を積み上げることを更に継続出来る体制作りに取り組む事が、今後のＰＴＡ活動の推進に必要であると感じています。

会長・副会長・事務局長の３役に、本年度は、監事・アドバイザーを含めた５役で、紀南ＰＴＡ連合会の執行部幹部役員を組織化して、更なる体制強化を図っています。以下の５委員会に全て２名の副委員長を配置して、委員会活動：家庭幼児教育・研修・広報・進路研究・総務委員会のＰＤＣＡサイクルを強化しました。

●研修委員会●家庭幼児教育委員会：昨年度のコロナ禍でのイベントに取り組み成功を収めて頂きました。今年度も成功事例から、早期より同様に市の使用可能な設備環境を行政と連携して模索、計画実行に向け始動しています。本年度のイベントも、ご期待頂けるように推進中です。

●進路研究委員会：例年同様に、紀南地域の特筆とされる三重県教育委員会教育長への陳情、更には、紀南地域高等学校活性化協議会へアンケート提出、紀南Ｐ連の提言書の提出に向け、地道な活動を展開中。小中学生の保護者および教職員のみなさまの意見を、広く伝えて行く方策を検討しております。是非、みなさまの声を教育委員会・行政に向けて発信したいと考えます。

●総務委員会：昨年下期より、取り組んできたＳＤＧｓの考えを昨年度の成功事例を元に、更なる活性化につなげていきたい所存です。今年度のテーマとして、**「ＳＤＧｓに取組む生き方の見直し“絆”」**の形作りを全校に広めていく施策展開を進めています。“誰一人取り残さない教育の実現”と“パートナーシップで目的を達成しよう”を　一人ひとり子ども達に伝える義務をはたしましょう！21世紀の地域を担う子ども達への道しるべを作っていきたいと思います。

●広報委員会：上記４事業の推進の進捗と課題をみなさまにお伝えする事に重点をおいてご報告致します。多忙なお仕事、生活の中で、ボランティア活動として、紀南ＰＴＡ連合会の推進に尽力して頂いているみなさまの姿を、2000人強の会員のみなさまに、お伝えする使命を帯びて、日々遂行しております。本部役員・評議委員（各学校のＰＴＡ会長）・教職員が、21世紀の中核に育つ“紀南の子ども達”へ活動のエールを送る為に、お役立ち出来る事を進めます。

紀南ＰＴＡ連合会は、三重県ＰＴＡ連合会のフラッグシップの存在となれる様に目標をもって活動して参ります。紀南ＰＴＡ連合会は、約2000名の会員を有するこの地域最大の団体です。是非、みなさまのご協力を頂き、更なる向上を図って参ります。

令和４年度向け　県立高等学校募集定員並びに、施設設備に関わる陳情

令和３年６月16日、三重県教育委員会 教育長 木平芳定様に、例年恒例の紀南地域の陳情を実施しました。紀南ＰＴＡ連合会・木本高等学校ＰＴＡ・紀南高等学校ＰＴＡ・東紀州くろしお学園ＰＴＡ・三重県教職員組合紀南支部・三重県教職員組合牟婁校支部の６者連盟。

【陳情討論について】

令和２年度、木本高校の総合学科が１学級減となりました。近畿大学工業高等専門学校が名張市へ移転後は、進路の選択の幅も狭まる中、部活数も減少傾向にあり、令和７年度には生徒の大幅な減少がみこまれており、両校の募集定員については課題があります。

学びたい場所で、誰もが学べる教育に地域格差のない環境構築を切に願います。令和４年度の県立高等学校募集定員の策定に向けて、地元で学びたい生徒の学べる場所の確保をお願いする陳情については、本年度も県全体で、総合的に判断したいとのことでした。

支援を要する生徒が増加傾向にある中、東紀州くろしお学園は、紀南地域における特別支援教育のセンター的機能を担っています。多様な子どもを受け入れることができる特別支援学校としての体制整備、特別支援学校教諭、自立活動教諭など障害種別･領域にあった有資格者の増員、配置を求めました。また、支援の必要な子どもたちの自立と社会参加に向けた支援の充実についても要望、更には公共交通機関の充実に向けたルート見直し案を含めて支援を陳情。前向きな検討の回答を頂いています。

木本高校定時制の存続も同様に「学び直し」の学校、「働きながら学ぶ」学校として、学力、社会性の育成を図り、自己実現を通して、地域社会の貢献の存続も陳情しています。

【紀南Ｐ連からの提言】

昨年の陳情の際、「この一年の活動成果を、次回会議にてご報告します。紀南Ｐ連の意志を見せます。」をお約束いたしました。

進路研究委員会を通して、昨年の活動実績を提示しました。従来までは、本陳情活動のみが、年間の計画にあげられていましたが、昨年度は、木本高校・紀南高校の両校長先生との対談を再開し、小中学生の保護者の意見をお伝えする機会を設け、高校活性化への糸口を見いだす活動を実施しました。また、会員150名よりアンケートを収集して、紀南地域高等学校活性化推進協議会において、教育委員会へ意見書を提出しました。各市町教育委員会にもご協力いただき、ＩＣＴ授業の進展に欠かせない Wi-Fi 普及率の実態調査を実施するなど年間を通した活動実績を積み上げてきました。

人口減少と同じく加速する、生徒数の減少問題に対しても、視野を広げて意識をすること等、広報紙を通して、デジタルデバイド（情報格差）に陥らない情報連携が、最重要との考えを提示しました。

今年度も、東紀州を中心に「ＳＤＧｓに沿った、今出来る事を形にすべく」学校・ＰＴＡ・行政の３者が連携して推進していきたいと訴えました。

紀南地域高等学校活性化推進協議会　報告

令和３年度は、本会議も最終年度となる予定にて、５回程度の実施を想定されている。但し、今回もコロナ禍の緊急事態宣言下により、初回8月20日はリモートにて開催。
実施決定期間が、短納期であったため、全ＰＴＡからのアンケート収集は、出来なかった。

紀南Ｐ連の提出書類；　本部役員、評議員22名の意見書
紀南ＰＴＡ連合会の第１回提言書

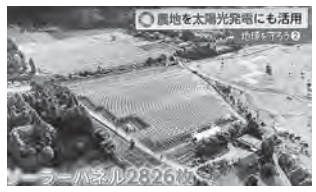
前期は、教職員含めて140名のアンケートを提出、時間の余裕をみて、全ＰＴＡ会員へのアンケート要請を今後検討します。皆様の忌憚なき意見を教育現場に届けてゆく所存です。

紀南Ｐ連からの提言書は、前回は、両高校への有るべき姿を提言。今のまま２校統合を迎えるのでなく、来たるべき日までに、２校が更なる活性化に臨む姿を求めましたが、今回は、更に風呂敷を広げて、紀南地域の人口問題に発し、外部移住者の活路、高校卒業者の地元での生活基盤の確立などにも触れて、５年後の子どもの減少ではなく、10～20年後を見据えた経済活動事態の活性化に焦点をあてた提言とした報告です。

１．富山県南砺市　田中幹夫市長のＩＣＴ推進
　・地元卒の高校生の８割が、帰郷を望む
２．ソーラーシェアリングによる、経済発展
　・年収300万の農家が、年収3000万へ
３．大規模産業廃棄プラントによる経済効果
　・産業廃棄物を、人財、エネルギー転換

この環境豊かな紀南の地も、今のままでの経済活動では、生活基盤が崩れるのは、このグラフよりショートスパンの展開が予想されます。子ども達の未来を見据えて、ＳＤＧｓにある「誰一人取り残さない」を目指して、皆様の気持ちを、子ども達に贈って行きたいと思います。

私たち、親が出来る事を子ども達に見せましょう。ご協力ください。



最近希薄化する　ＰＴＡ活動にて思うこと

紀宝町防災公園計画案署名活動　成功体験

紀南Ｐ連：広報委員長　中　澤　　武

この活動の始まり

当初、うどの幼稚園役員会での集まりで「コロナウィルス」の影響によりあたりまえに行われていた学校行事や地域イベントが中止になり子ども達の思い出、楽しみが奪われてしまった。

親として子ども達に今何をしてあげられるのか色々な意見が役員会で飛び交う様になる。

その理由は、子供たちの笑顔！成長！を強く思う願いが我々、親にはあるからです。

紀宝町は防災対策に地区別の家庭タイムラインなど、防災に対して色々と工夫されていますが　今もっとも重要な事が、安心かつ安全な場所であり、現在の公園は、古くなった遊具の危険も多い。**子供からお年寄りまで皆が寄り添い笑顔の溢れる場所が必要ではないか？**

step０　０からの発想“夢を形に”

子ども達を安全に遊ばせる。どこに場所を設定する。予算確保。誰と相談。

前期、うどの幼稚園ＰＴＡ会長だった中澤は、ＰＴＡ役員会で、こんな事を話したが、反応が 薄くその時、こう感じた「最近ＰＴＡ に無関心の方が増えている話を耳にしたが、当たり前、役員ですら、この状況なら仕方ないかも」・・・振り返って感じたものは、誰一人、発言することなく、役員会が終わってきたと。やらされ感！無理矢理押しつけられた！ 皆さんそう思っているのかと思うと悲 しくなった。中澤が思った事は、「何のために、ここにいるのか？ 子ども達のために出来る事は無いか？」その時、４人の手が上がった。今まで一度も会話をしたことがなかった方でも賛同してくれた事がなによりも嬉しかったです。

step１　公園計画設立委員会発足

４人からスタートしたプロジェクトは、思いを語る劇論の場となる。

公園を作る：既存公園の古い設備は？場所は？予算は？役場の誰と相談？　最初から暗礁だらけ。紀宝町役場と相談の場を設けて、こんな問いかけをしてみた。公園なら新しくつくる必要がないかも！但し、防災公園であれば、話はべつであろう？

高台での防災拠点となる設計をＰＴＡが主導することの意義は、素晴らしい。

行政とＰＴＡの連携で、不可能とされた扉（とびら）を見つけた瞬間である。

プロジェクトは、本格始動する。中澤を中心に、出来る事から始める。ＰＴＡ会員にこの想いを伝え賛同者は、急増!!

公園計画設立委員会は、約200家族、数百名の署名を集めた。信じられない事が起こり、目に涙が浮かぶ。更に、紀宝町役場もこの成果を高く判断頂き、新聞社も呼んでの町長様への正式陳情へとながれを急変させた。

もう一つの軌跡。それは、初めて声を上げた役員の奥さんから 「中澤さん、主人に声を掛けて頂き、本当に感謝しています。私達は、転勤族で、どこでも長くいなかった事で関わりを持つ機会を持てませんでした。主人は人見知りで、話せない人でしたが、今回のＰＴＡ活動に参加して、主人が変わりました。」

中澤は、「手を上げてくれたのは、ご主人ですよ！　感謝するのは、私達です！」

目標を持って、周囲を巻き込み大きな運動にして行くことは、傍観者にならず、火中の栗を自らがひろう覚悟さえあれば、人は変われるのだと実感した。

「たかがＰＴＡ、されどＰＴＡ」

３月末で、うどの幼稚園を卒園。今、中澤は、単Ｐの上位組織である紀南ＰＴＡ連合会の広報委員長に抜擢され、広くＰＴＡ活動を広報する立場となる。

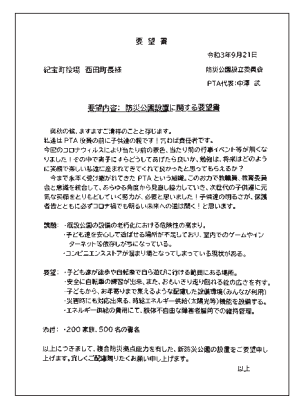
このプロジェクトは進行中のため、後期広報誌でこの活動を引き続き報告します。

step２　備蓄、ソーラー発電、畜電池を備えて避難民のエネルギー支援拠点を開設

step３　維持管理には、障害者への職業斡旋（給料は、発電エネルギーから）

紀南ＰＴＡ連合会の主導するＳＤＧｓに地域の取り組みとして参画したい。

《子ども達たちが描いた夢の公園 / 元気に走り回る子供たち》



《皆の想いが詰まった要望書》

《紀宝町役場 西田町長への要望書提出》

単Ｐ通信

紀宝町立 鵜殿小学校

明治７年９月11日､「第二大学区第41中学校区第11小学校」として開校した鵜殿小学校。今年で147年目を迎えました。147年の時を経て、今年は「学び合い、思いやる、たくましい子（学校教育目標)」の実現に向け、全校児童213人とともに、教職員・保護者・地域の方々と連携を深めながら、教育活動・教育実践をすすめているところです。

１.子どもたちの自主的･自治的活動

う→うれしさあふれる笑顔たくさんの子
ど→どんなことでもがんばる子
の→のりのりな「うどの」の子

児童会役員が設定した今年のテーマ。自分たちの学校の実態から、創り上げていきたい子どもたちなりの学校像を端的に表現してくれました。

６月には､感染対策を十分にとった上で「なかよし班 交流会」を開催しました。[すごろくトーキング][一致ゲーム][オリキャラメイキング]の各ゲームをなかよし班ごとにおこないましたが、どの会場も子どもたちの笑顔に溢れ、ゲームではありますが懸命にがんばる子どもたちの姿が見られました。

新１年生を迎え､この交流会を通してみんなが自分の成長を実感することができ､「テーマ」が形になった瞬間でした。

２.誰一人取り残さない教育活動･教育実践

「聴き合い、学び合い、よく考える子どもの育成」を研修テーマに、主体的・対話的で深い学びの実現にむけ、実践を積み重ねています。知ったら楽しい」など思考探求することの楽しさを感じ始めている子どもや、「班で考える事」「班ごとに色んな意見が出る」など仲間と対話しながら、班ごとでも意見がいっぱいあるから、意味を知って学ぶことの楽しさを感じている子どもなど、子どもたちからでる授業に対する向上心にも変化がうまれはじめています。

班に分かれての作業風景

班に分かれての作業風景

役員会のようす

個々に分かれての作業

紀南ＰＴＡ連合会では、SDGs CHALLENGE MIE に参画

https://sdgs-mie.com/about/
２０２１年5月２５日　正式登録
活動開始時期は、２０２０年８月～

- アルミ缶回収による、教育予算への補填　熊野市立木本中学校
- ボトルキャップ回収　海星高等学校（三重県四日市市）へ定期的に支援寄付
- 新規参画校の依頼中　依頼レポート　kinanR3-003
- 北九州全国大会で、ＳＤＧｓがクローズアップされた事で、三重県ＰＴＡ連合会としても、この下期から、運動を開始予定。紀南Ｐ連は、先行モデルとなる。

令和３年度議会請願の出願状況報告

① 子どもの貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求める請願書
② 教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求める請願書
③ 防災・減災対策の充実を求める請願書
④ 義務教育費国庫負担制度の充実を求める請願書

現在の教育・防災等に関しての改善要望として、熊野市・御浜町・紀宝町に請願致しました。熊野市・御浜町に関しては、昨年度同様に採択されましたが、紀宝町に関しては残念ながら今年度は紹介議員様にご支持いただけず、請願を上げる事が出来ませんでした。来年度は、３市町において採択いただけるよう取り組んでいきたいと考えておりますので、ご支援ご協力をお願い致します。

令和３年度 本部役員名簿

役職	氏名	所属名	役職	氏名	所属名
会長（兼 広報副委員長）	髙垣 裕人	木本中学校	進路研究副委員長	森澤 和俊	御浜小学校
副会長（兼 家庭幼児教育副委員長）	九鬼 町子	木本中学校	総務委員長	奥 豊和	入鹿中学校
家庭幼児教育委員長	黒瀧 一輝	有馬小学校	総務副委員長	徳田 匡教	五郷小学校
家庭幼児教育副委員長	尾﨑 健	相野谷小学校	アドバイザー	久保範顕	有馬小学校
研修委員長	北裏和樹	阿田和小学校	アドバイザー	脇濵ゆう子	矢渕中学校
研修副委員長	上地成人	成川小学校	書記	渡邊裕介	井戸小学校
広報委員長	中澤 武	鵜殿小学校	事務局長（兼 総務副委員長）	吉野大樹	飛鳥小学校
広報副委員長	北 勝志	尾呂志学園	監事（兼 研修副委員長）	大西 拓	金山小学校
進路研究委員長	宮﨑勝幸	木本中学校	監事（兼 進路研究副委員長）	奥地孝弘	御浜小学校

令和３年度 評議委員名簿

	家庭幼児教育委員会		研修委員会		広報委員会		進路研究委員会		総務委員会	
役職	氏名	所属名	氏名	所属名	氏名	所属名	氏名	所属名	氏名	所属名
委員長	黒瀧 一輝	有馬小学校	北裏 和樹	阿田和小学校	中澤 武	鵜殿小学校	宮﨑 勝幸	木本中学校	奥 豊和	入鹿中学校
副委員長	尾﨑 健	相野谷小学校	上地 成人	成川小学校	北 勝志	尾呂志学園	森澤 和俊	御浜小学校	徳田 匡教	五郷小学校
副委員長	九鬼 町子	木本中学校	大西 拓	金山小学校	髙垣 裕人	木本中学校	奥地 孝弘	御浜小学校	吉野 大樹	飛鳥小学校
委員	澤田 昌也	五郷小学校	小林 晋	井戸小学校	谷川 清博	木本中学校	峪中 崇	有馬中学校	大川 秀樹	新鹿小中学校
委員	松川 麻由	入鹿小学校	稲盛伸二郎	有馬小学校	北本 卓大	飛鳥小学校	松本 貞	御浜小学校	和田健一郎	木本小学校
委員	谷 賢一	神志山小学校	平 隼人	金山小学校	西 健作	入鹿中学校	野地 良成	神内小学校	濵口 輝久	飛鳥中学校
委員	大久保 豊	阿田和中学校	森倉 義成	井田小学校	中家 嗣仁	矢渕中学校	小西 大亮	成川小学校	西那 隆史	御浜中学校
委員					竹鼻 康	うどの幼稚園	西田 和樹	鵜殿小学校	奥 浩志	相野谷中学校

※委員長および副委員長には紀南ＰＴＡ連合会本部役員が着任しています。

単Ｐ通信

紀宝町立 うどの幼稚園

みんなでポーズを決めて記念撮影

全身をキャンパスにし、指先を使って楽しくお絵描きをしました

ボディペインティングで感性を育む

うどの幼稚園では、平成23年から毎年、地肌に絵や模様を自由に描くボディペインティングを行なっています。これは、枠にとらわれずに、指先や手を使って自由に絵を描くことで、感性を豊かに育んでもらい、想像力や発想力の向上に繋げようと行なっているもので、体に害のないボディペイント専用の塗料を用いています。

今年は７月９日に行い、園児ら32人は、赤・青・黄・白・緑・水色の塗料から好きな色を選び、はじめは絵の具の感触をおそるおそる指で確かめていましたが、慣れてくると、はしゃぎながら全身をキャンパスにして、お絵描きを楽しんでいました。

お化け屋敷にも挑戦『お楽しみ会』

うどの幼稚園では、２学期がスタートした９月１日、「お楽しみ会」を開催しました。当初は８月に毎年恒例の「夕涼み会」を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により中止となったことから、今回の「お楽しみ会」を企画しました。

園児たちは、お化け屋敷や射的、ヨーヨー釣り、輪投げなどを楽しみ、お化け屋敷では、「怖い怖い」と叫びながら手をつないでゴールする園児の姿もありましたが、最後はお化けと一緒に記念撮影をしました。

狙いを定める射的ゲーム

お化けと一緒に記念撮影

御浜町立 尾呂志学園

「地域とともに読書活動を進めています」

読み聞かせボランティア

中学生による読み聞かせ

尾呂志学園は、小学校と中学校が同じ校舎の中に併設された、県下で最も早くからコミュニティ・スクールを導入した学校です。地域の方々の力をお借りしながら、地域とともに子どもを育てる教育活動を進めています。

本年度４月に文部科学大臣より「子どもの読書活動優秀実践校」の表彰を受けました。長年継続して行われてきた「地域の方々による読み聞かせ活動」や「中学生による小学生への読み聞かせ活動」など、地域と小中学校が連携した読書活動の取組が評価されたものです。

毎月第２火曜日に地域の読み聞かせボランティアグループの方々が朝の読書タイムの時間に読み聞かせをしてくれています。また、小中併設校の強みを活かし、中学生が小学生へ読み聞かせも行っています。このような活動のおかげで、学園の子どもたちは低学年から本へ親しみ、読書量も自然と増えていきます。また、尾呂志学園の図書コーナーは地域にも開かれており、地域の図書館としての役割も担っています。機会があれば、ぜひ尾呂志学園へ足をお運び下さい。

紙　芝　居

図書コーナー

編集後記

FaceBook「紀南ｐｔａ連合会」も立ち上げました。リアルタイムでの活動イベント情報も掲載いたしますので、応援お願いいたします。新年１月には、HomePage開設予定。ご期待に添える様に努力致します。
お気づきの点がございましたら、ご連絡お願い申し上げます。
本会（各委員会）へのご質問・ご相談・ご要望等　（奨励点・提案事項等）をお寄せください。
本広報編集に辺り、うどの幼稚園 大倉正宗様、川﨑憲一様には、多大な協力を頂き、お礼を申し上げます。

紀南ＰＴＡ連合会広報委員会発行
住所：〒519-4323 熊野市木本町622-13
FAX番号：0597−88−2511
メールアドレス：kinanpta@outlook.jp